

近畿運輸局 栗原自動車交通部長と女性ドライバーとの懇談会 議事概要

日時：平成 30 年 7 月 4 日（水） 午後 12 時 30 分～午後 2 時

場所：大阪府トラック協会 研修センター601 号室

参加者：

【国土交通省近畿運輸局】

自動車交通部長	栗原 弥生
自動車交通部 旅客第一課係員	石松 佑理
自動車交通部 旅客第二課係員	阪下 理央

【女性ドライバー】

【兵庫】

(株)原岡運送店	池内 康子
----------	-------

【京都】

(株)吉秀トラフィック	満倉 幸子
-------------	-------

【滋賀】

(株)カロカ急配	平川 千波
----------	-------

(株)ビッグアクシス	小川 まゆみ
------------	--------

【奈良】

(株)ハンナ	山岡 昌代
--------	-------

【和歌山】

鴻池運輸(株)和歌山支店	温井 彩乃
--------------	-------

【近ト協事務局】

(一社) 大阪府トラック協会	専務理事	滝口 敬介
同	企画室係	林 鈴佳

(栗原部長 冒頭挨拶)

トラック業界についても人手不足というのも例外ではなく、特に宅配は物流クライシスということで、世間一般の方から注目が集まっています。今、何とかしなければいけないという意識が生まれつつあります。

荷主さんも、段々と、トラックドライバーの職場環境を良くしないといけないのではないかと目がいきかけている。こういった人手不足を何とかする為には、今まで運送業界に馴染みのなかった、若い方や女性の方に入っていただくことがポイントになってくる。

事業者の皆様も若い人や女性の方に入っていただこうとされていると思いますが、一方で、中々雇用に結びつけられないところが多く、皆様からお悩みをお聞きしているところです。

ドライバーが働いてる中で、もうちょっと良くしたら、女性の方、若い方に入っていただける

のではないかと、実際自分たちが働いている中で、もう少しこういう所を良くしたら働きやすくなるというのがあれば、お伺いしたいと考えています。  
どうぞよろしくお願ひいたします。

### [質問]

#### 1. 自己紹介と入社のかっかけ、何故トラガールに

- ・運転が好きで、この仕事に向いていると思った。
- ・運転が好きで、ちょっと遠くへ行ってみたいと思った。
- ・前職、別の仕事をやっていた、その間に大型免許を取得しました。主人が会社をやっている大型免許を持っていればいつでも乗れるかなと思っていましたが、主人が亡くなったので私が代表になりました。代表になって人を使う側になって、自分が走らないと従業員の気持ちかわからないと思い、長距離や荷物を積むにしても従業員と同じ気持ちで走ること、それからは一社員というのを忘れずに走っています。
- ・車が好き、トラックが一番ですが、元々手伝いで入ったのが経営者になってしまいました。27年やっています、繁忙期には一番遠方に行きます。女性ドライバーも数名います。
- ・叔父が運送会社をしていて、私も運転が好きだったので働かせていただきました。
- ・親戚が新聞輸送をしていて、それがやりたくて面接を受けました。女性ドライバーは雇っていませんと断られた時もありましたが、そこから20年程ドライバーをしています。その間に出産も体験しました。今の仕事が気に入っています。

#### 2. 皆様のお話をお伺ひして、運転が好きというのが良くわかりました。親戚やご家族の方が運送業を経営していた方がおられました、(親類等) 周りの影響もなくドライバーになられた方はおられますか。

- ・友達の紹介です。  
違う会社で一緒に働いていて、大型車の乗れる仕事を探していて、友達が先に決まったので私も紹介してもらいました。
- ・子供も自立しているので、時間にも余裕があったので自分で探しました。

#### 3. 入社して困ったことは。

- ・女性トイレが少ないこと。
- ・トイレです。コンビニ等は狭くてトラックを止めにくい。
- ・女性はトイレに行きたくなってもすぐに行けないので、水分量を減らしたりはしているが、飲まなければ死んでしまう可能性もあるので、一番はトイレの問題です。
- ・トイレです。トイレは道の駅など増えてはきていますが、更衣室が少ない。  
汗をかいた時に男性は何処でも着替えられますが女性は更衣室がないと着替えができない。
- ・トイレです。トラックが大きければ止める場所がない
- ・トイレです。行った場所にトイレはありますが、(女性の利用が少ないため) 女性トイレなのに男性が入ったりしていることもある。

3. 普段の勤務時間について。

- ・ 7時45分～16時30分
- ・ 4時30分～16時まで
- ・ 4時～16時まで
- ・ 小さい子供がいれば8時～19時、フルの人は10時間
- ・ 7時～19時
- ・ 夜9時～3時、 昼11時30分～14時

4. 男性の世界というところがあって、女性が入ったことによる拒否反应的なところもあると思います。入社して男性ドライバーとの関係で、嫌なこと、逆に良かったことなどはありましたか。

- ・ 興味津々といろんなことを聞いてくるのが恥ずかしいが、やさしい所は、手伝ってくれたりするのが助かる。
- ・ 入社したころは荷物も重いので色々手伝ってくれたのですが、慣れてきたら女やからって手伝ってもらうのが悪い気がして自分も悔しいし、自分なりに、時間はかかりますが、ひとりで荷物を分けたりしたりしています。
- ・ 幹線のホームで積み込み作業している時に、「女が何ウロウロしてるのか」と言われたことがある。パレットに積むときはフォークリフトを使っても、卸すときは手で卸さないといけない。卸す方法を色々考えてやっていると、女性でもできると思われるようになっていくと思う。
- ・ 女性ドライバーが入ってくると男性ドライバーに可愛がってもらえます。自分たちでどれだけアピールするかも大事なかなと思います。
- ・ 男と女は身体づくりも違うので、出来ないことは出来ないのですが、「何故あいつにやらせないのか」とか言われることもある。外に出れば、「何しに来たんや」と嫌な顔をする人、逆に「大変やな」とやさしくしてくれる人と2通りあります。
- ・ そんなの一人で卸せるの、誰か連れて出直してきてって言われた時もありました。
- ・ 同じ給料をもらっているのに、出来ないというのは嫌なので、手伝ったろかと言われても結構ですと断わってきました。それでできなかつたら辞めますと言っていたので、普通に一緒に仕事ができるというのを見てもらえれば、男性と同じように扱ってもらえればと思います。
- ・ セクハラじゃないですが、夜中に働いているときに、こいつは何をしてもいけると平気で触ってきたり、頑張ってるのに、家ではどうせひっくり返ってるんやろとかをみんなの前で言う人がいて、そういう面では腹が立ちました。今は認めてもらっているので、そういうのはないですが、つらい時もありました。

5. トラック業界は男性だけの職場ではなく、女性の方も働きやすい職場にするのが大事だと思います。現状、トラック業界には男性が多いのですが、若い人や女性に関心を持ってもらえるために、皆さんの会社では、勤務体系や施設面などはどのような状況でしょうか。また働いている中で、気づいた改善のポイントなどがあれば教えてください。

- ・育児休暇とか出産の休暇とかは一切なくて、その時は辞めてくださいといわれます。ただ子供が手を離れてから、まだ働きたいなら、また雇いますって言われます。そういう面をサポートしてくれる会社があれば女性の方も働きたいと思います。
- ・育児休暇とかはないですが、事業所内で保育所ができたので、0歳～2歳の子供を預けられるようになりました。
- ・育児休暇や介護の関係は会社でも（制度を）作っていますが、今の若い人は自由時間を持ちたいという人が多いので、企業側だけが努力しても女性や若い人が入ってこない、働き方改革が認められた中で、何かを変えていかなければならない。運送会社や建設会社は昔からの流れが続いているので、中々変えることはできないが、これから国が中心となって働きやすい環境を作っていければ、若い世代の人も入ってくるのではないのでしょうか。
- ・若い人はトラック重視です。トラックにお金をかけていると、自然と使う方も綺麗にしてくれる。予算に限りはありますが、従業員の意見を重視して内装とかも自分の好きなようにすれば、若い人がきてくれるのではないのでしょうか。カッコいいトラックを見ていただいて、お客様に迷惑をかけない仮装をして、若い人を呼び込みたい。
- ・女性ドライバーが何人か入っても、拘束時間が長いとかで、中々続かないで辞めていく人が何人かいました。
- ・育児休暇も産休もとれます。トイレも増えてきていますが、今は紹介でしか入れないので、もっと募集の宣伝をする必要があると思います。

6. これからトラック業界に入ろうとしている女性のために一言お願いします。

- ・自分自身でやりきる気持ちをもっていれば勤まります。
- ・不安もあると思うがチャレンジしてもらおうべき。
- ・今持っている免許だけではなく、ある程度の免許をとれるだけとっておくべきです。
- ・運送の中でも、トラックに乗るだけではなく、運送にまつわる様々な仕事があるので、幅を広げたアピールをしていくべき。
- ・何でもチャレンジしていく勇氣を持っていれば大丈夫です。
- ・車が好きな人なら大丈夫です。

オートマであったら、入ってくる女性も増えるのかなと思います。

(栗原部長)

国でも女性が運転しやすい車を開発しようという取組が始まっています。その一つがオートマですが、これが女性が運送業界に入っていただくきっかけになればいいと思います。

当局としてもみなさんの意見を参考に、こういうことをやっていけば、若い人や女性のアピールになるのではないかという提言を作って行きたいと考えています。

(滝口専務)

人材不足に対して色々な取組みをしていきたいなと思っています。一番大事なことは、若い人の気持ちをどうとらえるか。若い人は自分にあった仕事を求めています。それを求め続けるので、若者は平気で仕事をどんどん変えていきます。また、就職する場合も必ずホームページがあるの

かチェックしているようです。また、若者は、自分が実際働いた場合どうなるのかイメージできるホームページなどが好まれているようです。会員事業者中には、そんなホームページを作られているところもあります。

こうしたことから、今年度は、人材不足の取組みとしてホームページのセミナーも考えています。まあ、いろいろチャレンジして行きたいと思っています。